

第 2 回 三種町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成 27 年 11 月 27 日（金）午後 2 時
- 2 開催場所 三種町役場 第 3 会議室
- 3 出席者 三種町長 三浦 正隆
三種町教育委員会 委員長 堀田 キミ子
教育長 鎌田 義人
委 員 嶋田 博光
委 員 水野 京子
委 員 佐々木 孝一
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 総務課長 木村 信悦 総務課長補佐 石井 靖紀
行政係長 清水 真
教育次長 嶋田 仁 生涯学習課長 後藤 誠
総務学事課長 小林 あづさ
- 6 内 容

午後 2 時 3 分開会

木村課長 おつかれさまです。本日はお忙しい中会議にご出席下さいまして、ありがとうございました。

それでは、第 2 回三種町総合教育会議を開催させていただきます。

始めに、町長より挨拶をお願い致します。

三浦町長 皆さんこんにちは。今日は大荒れの天候で、また、月末の大変お忙しい中、大変感謝申し上げます。

11 月は陳情やふるさと会、新嘗祭等への出席のため月の半分ほど東京に行っておりました。町村長大会がございまして、その中で話題になったのが、教職員の削減案が財務省から出ているということで、文科省と財務省の綱引きがあるようです。全国町村会としては断固反対ということで陳情をやってきたところでございます。

さて、今日の会議でございますが、去る 6 月に第 1 回目の会議を開催しておりました。前回ご審議いただきました内容を思い起こしていただきまして、この後協議に入ってまいりたいと思います。

各市町村で少しずつ教育大綱が出てまいりまして、美郷町さ

ん、男鹿市さん、それから上小阿仁村さんのものも拝見しました。それから、今日、県の大綱の概要版をお配りしておりますが、各市町村とも工夫を凝らした内容になっており、スタイルも多岐にわたっております。

本町も地方創生の関係で総合戦略を10月末までに仕上げましたが、そういう経験を踏まえますと、やはり地域の皆さんにお示しするためには、ある程度納得のいくボリューム感のあるものを作って丁寧に説明していく必要があると思ひまして、この後説明致しますが、総合計画をベースにした案をご審議いただきたいと思っております。

それから、今は市町村間の競争の時代です。昔は横並び意識が強かったのですが、大きい市だから良い、小さい村だから駄目ということではなく、要は知恵比べということが言えると思ひます。そういうことで、今全国の自治体は競争しているということだけは、委員の皆さんにご理解いただきたいと思ひます。

そういう観点からも、教育大綱というものを見ていただきたいということを申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

木村課長

ありがとうございました。

続きまして、教育委員長よりご挨拶をお願い致します。

堀田委員長

悪天候の中お集まりいただきましてありがとうございます。

皆様のお力をいただきながら町の子どもたちも大変元気に活動しておりました。9月から3か月かけて全校を回りまして、子どもたちの様子を見させていただきましたが、地域の力も借りながら元気に活動しておりましたので、まずは報告しておきたいと思ひます。地域の中にある学校ということで、この後どのように持っていくかということも課題になるかと思ひますが、各地域の住民も子どもたちに負けないような過ごし方を見出していけば良いのかなと思ひてきました。

本日は、子どもたち、それから地域住民の皆さんがより良い生き方を見つけ出すことが出来るように、そして、町の計画が色々おありかと思ひますが、輝く町民が増えることを願っておりますので、そういう話し合いが出来れば良いかなと思ひています。

また、教育委員会からは、学校の予算関係についての話が出るかと思ひますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

木村課長

ありがとうございました。

それでは、以降の議事の進行につきましては、町長にお願い

致します。

三浦町長

はい。次第の4番に入ります。議事録署名委員の指名でございますが、私の方で指名させていただいてよろしいでしょうか。
（「はい。」の声あり。）

三浦町長

それでは、嶋田博光委員にお願いしたいと思います。

嶋田委員

はい。

三浦町長

5番の協議事項に入ります。

（1）三種町教育大綱（案）についてということで、ご審議いただきたいと思います。

冒頭の挨拶で申し上げましたけども、秋田県では6月に早々とカラーの写真の入った教育大綱の概要版を出しております。それから、前回6月の本会議では、三種町教育大綱ということで大まかな形を皆様の方に提示しておりましたが、その後、各市町村の大綱も見てみまして、少し内容の順番を入れ替えて教育大綱（案）を説明したいと思っております。

1ページの「はじめに」という部分をご覧ください。今回の大綱策定の経緯と、町ではどういうことを考えているかといった概略をまとめています。

次に2ページですが、「教育大綱の策定にあたって」ということで、教育大綱策定の経緯、趣旨、方向性、実施期間、見直しということで5項目を設けました。

来年度、総合計画を作成致しますけども、この大綱と整合性がとれない部分があれば、第5項の「大綱の見直し」という部分がございますので、これによって大綱を見直しするということで書いております。また、教育大綱というのは自治体の首長と教育委員会が考えを摺り合わせてやるということで、当該任期の間に終わるのが適切であろうと思いましたので、27年度から29年度までの3か年の実施期間ということで変えております。

次に、3ページには「施策の基本目標」ということで、基本目標1から7まで定めております。じつは、中身につきましては総合計画の引き写しでございますので、特に目新しいものはございません。ただ、この中の文章を見ますと、客観的に見たような書き方、表現になっているものがございます。もう少し自分のものとして、主体的な表現に修文しております。大綱というのは主体的、自発的にやっていこうということでしょうから、そういう形に文章を直したつもりでございます。

それから、前回お示しした大綱の順番を変えました。教育大

綱ということですから、学校教育が最初に来るであろうということで、中身についても「学校教育の充実」と「教育環境の充実」の2つに分けさせていただきました。

それから、学校教育の次に大事なものとして、3番目に「幼児教育の充実」という目標を設けました。

その後、基本目標の4として「青少年の健全育成」、5は「生涯学習と芸術文化の振興」、6は「生涯スポーツの推進」、7は「国際理解の促進と国際交流の推進」という形で、ある程度年齢層に対応するように分けてみました。これで良いかどうか委員の皆さんのご意見を伺いたいと思っております。

例えば、前回1番前にあった「芸術文化活動の振興」と「生涯学習の推進」については、同じ年齢層の方が対象になりますでしょうし、生涯スポーツも同じように思います。

全体では7つということで数は変わりませんが、順番を入れ替えております。

それから、取組方針につきましても、基本施策の中から各目標につき5つ、6つ程度に収めまして、2つを1つにまとめたしながら総合計画の取組施策を取り込んだものでございます。

今日で決定稿とすることは出来ませんので、出来たら年を越えてからもう一度会議を開いていただけたらと考えております。基本は総合計画に則って作成しまして、これを修文したりしております。

今回は、特に地方創生の関係もあって考えさせられるところもございました。いったん町を出た人が、将来またここに帰って来たいと思わせるような教育も必要ではないかということが、じつは委員の中からも出まして、ふるさと教育も大事だなと改めて思ったところです。今、各小中学校で行っているようなふるさと教育などを更に充実させていきたいなと思っております。

それから、各市町村を見ておりますと、パブリックコメントを求めているので、能代市さん、藤里町さんでは、ある程度出来た段階で1か月位の期間を設けてホームページで意見を募集しておりますので、本町もそういうふうにして一般の方のご意見もいただきたいと考えております。

堀田委員長

今、町長さんからご説明いただきましたけども、私も同じ意見でございます。説明を受けましてすぐ了承ということは難しいと思いますので、再度確認してみまして年度内にもう一度決定する会を設けた方がいいと思います。

そしてまた、総合教育会議とか教育委員会を開催する日にち

は、町民の方に広報等で早めにお知らせするようにしておりますが、なかなかお出でにならないので、ホームページとかでご意見を聴いてみるというのも良いと思います。

三浦町長 はい。細かい部分については、持ち帰っていただいて、委員の皆さんからご意見をいただければ私どもの方で反映させていただきます。

それから、教育大綱の実施期間につきましては、市町村によって4年というところもございますし、様々ございます。まず任期期間ということで29年度までの3年としておりますが。

堀田委員長 4年、5年となりますと、今は社会の変化が激しいので長いような気がします。

佐々木委員 あまり短いと計画としては良くないと思いますので、ちょうど良い期間だと思います。

三浦町長 状況の変化によって直さないといけない部分が生じれば直す訳ですので、何が何でも3年ということではございませんので、よろしくお願いします。

堀田委員長 見直しをするときに特に重要視したいのは、家庭教育についてです。ここがしっかりしていないと幼児教育も児童生徒の学校教育も十分やれないと思います。この点、佐々木委員さんは。

佐々木委員 そうですね。昔と違って核家族世帯が増えています。その関係で子育てが十分できていない状況になってきています。社会が変化してきていますので、それに合わせて家庭、地域、行政が一体となって対応していかなければならないと思っています。

そのとき一番大事なのが家庭教育ですが、これがなかなか難しい面があります。仕事の関係で自分の子どもの教育まで手が回らないというのもあります。そのために保育園とか幼稚園があるのですが。

平成27年からの三種町子ども・子育て支援事業計画を作ったんですが、ここに来て状況が変わってきている面があります。私の所でも保育園をやっています。保育とは何ぞやということになれば、養護と教育ということになっています。教育委員会の管轄ではないのかもしれませんが、ここに来て、保育士不足が顕著になってきています。そのために、表立って待機児童というのは無いのかもしれませんが、実際のところは入りたくても入れない。というのは保育士がいなくて。保育士の学校に行っている若い人たちがなかなか地元に戻って来られない。私たちの所にも研修に来てはいますけども、非常にもったいない、欲しい。4月にスタートするのですが、その時点で確保されてい

ても、その後子どもの数が増えるとか、生まれた子どもを入れたいといった場合もありますので、その時の対応が非常に難しくなってきています。これは福祉だ、教育委員会だということではなくて、町として考えていくことだと考えております。

三浦町長

只今の保育士さんの不足の問題は、特に出産後の育児休業が終わって復帰しようとするときに、ゼロ歳児は3人に対して保育士1人必要なんですね。結局、町の保育園も4か所ありますが、前もって確保しておかないと途中で募集しても応募が来ないんですね。

佐々木委員

前もって確保することは、経営的にリスクが伴うんですね。多少は採っているんですが、途中から入ってくる人数がそれを超えてしまう場合もあります。その他、障害児については、福祉課から1人に1人付けて下さいというのがあります。これは公立の方も同じような状況だと思います。毎回広報に募集が載っておりますけども、集まっていない状況だと思います。町として保育士の確保について考えていくべきだと思います。良い知恵がある訳ではありませんが、検討していかなければならないと思います。

三種町長

じつは町の職員組合との団体交渉の中でその話が出まして、保育園の園長先生から現場の声としてお話がありました。大変だなと改めて思いました。早く何とかしなければならないと思います。それから若い保育士さんということでしたけれども、せっかく大学を卒業しても、こちらの方にあまり職場が無いといえますか。

佐々木委員

私の方にも地元ということで研修に来るんですが、就職ということになると、最初から正職員になれるとか、学校の方でもしっかりしたところに就職させるというのがあるみたいです。勇気を出してプラスアルファでやれば良いのですが、経営のことを考えるとなかなか出来ないというのが正直なところです。

それから、数については見通しを立てにくいというのがあります。4月からのスタートで12月から1月までの募集期間でやりますが、それ以後はなかなか難しいというのがあります。職員も産休や長期の病気休暇で休むこともあります。余裕を持った確保というのは難しい。

三浦町長

先程、堀田先生から家庭教育が一番大事ということでしたが、家庭の教育力というのは落ちてきているのでしょうか、確実に。

堀田委員長

各学校を回っていますと、大変な状況のようです。具体的にお話すると、おばあさんが子育てしているケースとか、やはり

経済力が無いので子どもの教育どころではない、生活するのがやっとならなければならないし、子どもには手が回らないといった状況の方々もいるようです。教育長さんは、もっと具体的にお分かりですね。

鎌田教育長

生活するのが大変だというのが、色々な影響をもたらしているように思います。今、格差、格差と言いますけども、やはりかなり格差が広がってきているような気がします。家庭の教育力が低下したというのは、一番にはそのような気がします。ひとり親家庭の経済力が低いということで、小中学生が今 1,009 人で 160 人以上はいます。父子家庭、母子家庭それから両親がいない子もおりますし、それがスポーツにも相当影響してきています。スポ少に参加出来ない。中学生では部活に入らない。その原因の 1 つが経済力ということで、何とか出来ないものか。それから、小学校の低学年あたりになると、躰が全く学校任せというか、そういう例が多くなっているように思います。

三浦町長

今、就学援助というのはどれ位受けているんですか。

小林課長

保護者数としては、小中学生合わせまして 9 3 世帯です。児童生徒数では、児童が 8 4 人、中学生が 4 7 人の合計 1 3 1 人です。1 3 % 程になります。

三浦町長

就学援助というのは、修学旅行とかノートとかまでは出るんですか。

小林課長

項目を申し上げますと、学用品、通学用品費、校外活動費。小学校 1 年生と中学 1 年生に関しましては、新入学用品にも使えるように援助しております。それから、修学旅行については全額ではないのですが、小学生で 21,000 円位、中学生 58,000 円位援助しております。ただ、これは実績で支払うものですので、毎月の集金が非常に苦しいご家庭もあるということです。あとは、中学生になりますと体育実技用品に 7,000 円援助しております。

三浦町長

金額を見ると十分ではないように思います。

小林課長

あと、給食費については、小学生は年間 17,500 円、中学生は 19,750 円という金額なんですけど、これは国の就学援助の基礎的な金額に則って町で決めております。

三浦町長

テレビとか新聞で子どもの貧困というのが毎日のように出てきますけども、まさに我が町にも沢山あるということですけども。

鎌田教育長

新入学時援助の支給方法は。

小林課長 支給方法ですが、3月の認定審査会の認定を受けまして、5月の支給になります。全て合計した金額を給付していますが、給食費に関しましては半年ごとの支払となっております。

三浦町長 公金の支払上、どうしても先渡しが出来ないものですから。

堀田教育長 まず、出していただけるならありがたいなと思っています。

鎌田教育長 新入学時の援助を早くしてもらえないかという意見がかなりあります。町でランドセルをプレゼントするんですが、援助の方を5月ではなく3月に出来ないものかということで、かなり意見があります。

嶋田委員 公金というのは前渡し出来ないのですか。

嶋田次長 3月に審査委員会をやって、お金は新年度の予算から出るというようなこともあって、今のところは早めても4月。前年度でお金を用意しておいて、審査会が終わったら前年度予算で出すということが出来るとすれば可能でしょうけれども。ただ、中には学校に入る直前になって、別の学区に行ったり、別の町村の学校へ行ったりとか、そういったことも出てきますので、やはり安全策ということで、確かに入学したということを見極めた上で支給しています。

佐々木委員 父兄としては、やはり3月でしょうね。

嶋田次長 就学援助費については、以前、議会でも質問が出て、もっと早く出せないかと言われたのですが、審査をクリアして、その後でなければ支払いが出来ないということで若干ジレンマがあります。

堀田委員長 私の現場の経験でも、3月20日過ぎになって急に、明日、他の学校に行くと言ってきた事例もありました。

三浦町長 早く支給したいんですが、なかなか難しい面があります。子育て支援を総合戦略に打ち出していますし、引き続き支援をしていきたいと思います。

それから、青少年の健全育成というのが、町の中で空白部分ではないかなと思っていますけども、高校生については、最近どうなんでしょうか。

堀田委員長 今の高校生たちは、往々にして外に出ないで、我々の知らないところで動いているという状況があるようですが。

水野委員 高校が無いので、高校生たちがどうしているか見えてこないですね。そこに支援をするというのは難しいと思います。

堀田委員長 中退した場合は、教育委員会に連絡が来るものですか。

鎌田教育長 来ません。

三浦町長 感心だと思ったのが、スポ少の結団式の時にボランティアの

高校生来ますよね。

後藤課長 スポーツリーダーだと思います。スポ少の登録が25歳まで出来ます。それで高校を卒業してもスポーツリーダーということで県の方に登録するのですが、以前は10人以上いたのですが、現在は3人に減っています。

三浦町長 町の中で、15, 6歳から25, 6歳位までの人は、いるような、いないような感じで見つからないですね。本当はもっと地域に参加してもらいたいんですけども。

鎌田教育長 森岳小学校で、長期休みに学習のお手伝いをするということで、森岳小学校出身の大学生が20人位来ています。そういう交流を他の学校も取り組めば出来るんじゃないかと思います。

三浦町長 それはどういうきっかけですか。

鎌田教育長 校長のアイデアです。

三浦町長 そういう出番づくりというのも大事ですよ。

鎌田教育長 能代高校では、自分の出身校に行ってお手伝いをするというのがあったと思います。

堀田委員長 お世話になった人には必ずお礼のハガキを出すということで、子どもたちの国語力にも繋がります。

鎌田教育長 これは良いことだから他の学校にも広がれば。

三浦町長 良いことですね。

今年はふるさと納税がすごく入ってきています。今6千万円位入ってきています。去年が年間で230万円です。福祉に使って下さいとか、色々用途はあるんですけども、これも1つのふるさと教育でしょうから、そういうことに回してみることも良いと思います。

堀田委員長 学校裁量で使える予算があればというのが、学校を回っての要望でした。

三浦町長 本町の場合は、お返し品を充実させておりまして、6割位はお返し品に充当しています。かなり率としては高いです。

嶋田委員 どういうものですか。

三浦町長 牛肉とか、メロンの季節ですとメロン詰合せとか。一番多いのが桜田畜産の牛肉4枚セット。あれは宝島社のふるさと納税2016年版の「最高級牛肉部門」で第2位です。それから馬刺しが「その他の肉部門」の第4位です。

木村課長 今の時期は、下岩川の岩川水系米もあります。

三浦町長 ハガキ代が無いということであれば、そういうことでも良いのではないかなと思います。

木村課長 子育て支援に充当して下さいという項目もありますので、町

長から指示があれば出来ると思います。

三浦町長

森岳小学校で始まったそういう運動があるのでしたら、ぜひとも広げていければ良いと思います。

地域のお祭りだとか盆踊りでも、なかなか青少年の姿が見えないのが残念ですね。

堀田委員長

地域の嘆きでもありますね。学校行事と必ずぶつかるんです。土日にお祭りがありますよね。平日とか子どもたちが参加出来る日や時間帯に出来ないものかというのが、一部地域でも話がありました。

鎌田教育長

他のところでは、地域の祭りの時は学校を休ませているところも結構あります。

三浦町長

大館神明社とかもそうですね。

堀田委員長

土崎のお祭りも学校お休みですからね。

鎌田教育長

土日に合わせないで、何月何日というふうに決めれば良いんですが、それだと大人の都合が悪くてそういうふうになっているのだと思うんです。いずれ学校を休ませて地域の行事に参加させるというのも良い方法だと思います。

三浦町長

3 ページのところに学校教育に関するものが2つあるんですけども、これを話題にさせていただきたいと思います。意外と行数としては短くしておりますが、学校教育の中で、部活では山本中学校の野球、女子のバスケット、琴中、八竜中学校も頑張っています。

それから、今年3校で英語の授業を見させていただきましたけども、素晴らしかったです。6, 7割の時間を英語での授業をしていまして、子どもたちが皆先生についていって受け答えしておりました。私たちの頃とは全然違うなと思って見てきましたけども、更に子どもたちを伸ばすために、何かお気づきのところはございませんか。設備の点とか。

嶋田委員

最初のところに「ふるさとを愛する心」と書いておりますが、これを「日本を愛する心」と捉えますと、外国から見た日本、外国を理解してから日本を見ると、元々日本は外人なんだなと分かってくるような気がします。従って、外国を理解する、交流するという機会があればあるほどそういう気持ちになってくるのかなと思います。差し当たって、まずは英語ですね。相手の言っていることが分からないと対応出来ない。そういう意味でネイティブの英語に触れる経験が出来ればと思います。

三浦町長

今英語の授業はチームティーチングなんですか、それとも先生1人でやるんですか。

鎌田教育長 A L Tがいる場合はA L Tが入って、外国語指導員もいますし。殆どがその形で、先生が1人というのは少ないです。

三浦町長 今一番生徒数が多いクラスというのは何人位ですか。35人位ですか。

鎌田教育長 三種町の場合は、琴丘中学校が1学年1クラスで、1クラスだと人数が多いんです。40人に近い30何人ですから。40人超えれば2クラスになりますので。例えば46人であれば23人ずつの2クラスになります。八竜は2クラスなので少ないです。一番多いのが琴丘中学校です。それから山本中学校の1学年1学級の35, 6人です。学校としてはそれを2つに割って授業をやりたいと。1教科に出来れば2人の先生をお願いしたいということでやっています。

三浦町長 中学生で36, 7人ということで大変なんじゃないですか。

堀田委員長 教室が一杯で。まず教科書が大きくなりましたので、机も大きくなりました。

鎌田教育長 今までのような40人とか想像出来ないです。

三浦町長 我々のときは45人クラスでしたよね。

堀田委員長 そうでした。

鎌田教育長 教室の大きさはそのままですから。机が大きくなって、びっちりです。

三浦町長 やはり20人位が一番良いんですよね。人数が多い方が競争力が付くとか言いますが、それも善し悪しで。

鎌田教育長 少なければ、もちろん丁寧に関わっていけるし良いと思います。小学校は下岩川を除いて学年1クラスですので、それも20人前後の学級なものですから、丁寧に1人1人やれていると思います。

三浦町長 そうということが学力テストの成績が高いということにも結び付いているのだと思います。

 あと設備面で、例えば最近よその学校で電子黒板とか話題になりますけども、まだうちの方には入っていないのでしょうか。

堀田委員長 ありますよね。

鎌田教育長 今回教科書が改訂になって、各学校から要求されて12月補正予算にデジタル教科書の指導書の方を672万円計上しています。それに対応出来る電子黒板も要望があります。

嶋田次長 今もそれぞれ持ってはいるんですが、あまり使い勝手が良くないということで、出来れば手書きも出来るし、直接データを黒板に入れられるような、パソコンを通さなくても出来るようなものが欲しいという要望が出てきています。今の電子黒板は、

先生が持っているパソコンを教室に持って行ってセッティングして使っているんですが、やはり時間がもったいないし手間が掛かるので新しいのが欲しいということです。結構な値段です。

三浦町長 去年フィンランドに行ったら、向こうの学校はみんなそういう黒板でした。

嶋田次長 それから、手書きしたものは、すぐにプリントアウト出来るような機能もあるんですね。

堀田委員長 かなり高額なんですよ。

嶋田次長 若干は新年度予算に挙げさせていただきたいと思っていますが、その時に判断していただきたいと思います。

堀田委員長 予算のことが出ましたのもう一つお願いですが、中学生は全部大きい教科書に対応した机になっているんですが、5、6年生の机が前の規格の机なんです、あと幾らでもないんですが。

鎌田教育長 中学生は、年次計画で全部終わったんです。一気にやってしまっただけということ、学校から話が出ています。教科書は全部変わっているんですよ。

堀田委員長 A4版になって、ノートも大きくなって、机から溢れているんですね。出来れば前倒ししていただければと思います。

三浦町長 なるほど。小学校の机ですね。

鎌田教育長 先程、英語のことが出ていましたが、ALTについて、現場からの声ということで小中学校からございました。現場では、学力の面ではALTが何人いてもあまり向上はしないであろうと。ただ、ネイティブから本物の英語を聞きたいとか、学力だけではなくて、色々な国の文化を学ぶためにも必要ではないかという先生もおります。旧町には1人ずついましたので、出来ればもう2人増やしていただければ、各中学校に所属させて、中学校区単位で計画を組んでやっていけば、小学校の方にもかなりの時間行けます。5、6年の教科化も近いし、低学年は外国語活動ということでやれるでしょうし、空いた時間には保育所にも行かせることが出来ます。あるいは時間的余裕が出来れば、地域で英会話教室も出来ると思いますので。

三浦町長 そうすれば、JETプランですか。

鎌田教育長 JETでなければお金が掛かりますから。

三浦町長 特別交付税で全額10分の10来ますので。

嶋田次長 最初の渡航費用とかで済みます。

堀田委員長 ALTの方は、私たちのような年代の方に地域の公民館などで指導するというのは枠内に入っているのでしょうか。学校教育だけなののでしょうか。

鎌田教育長 大丈夫です。

堀田委員長 そういう活用も出来るのかと。

三浦町長 昔八竜で、A L Tの人に公民館で英会話教室をやってもらおうとしたら、駄目ですと言われたことがありました。

嶋田次長 今はそういう制約はありません。A L Tも配属になれば、その地域の住民と活動するようという方針があります。

三浦町長 そうすれば、成人学級とか社会教育でやってもらえれば。

小林課長 観光協会の方からニコラス先生の方に英会話教室を見てもらえないかということで打診がありまして、1月から3月まで週1回講師で行くことになっております。

三浦町長 そうすれば、嶋田次長にJ E Tプランの申込の方お願いしたいと思います。

じつは今、商工観光の方で台湾との交流を進めています。先週じゅんさいの海外販売の関係でJ Aの組合長さんと商工観光の職員も行ってきたんですが、南投県という台湾中部にある県とサンドクラフト繋がり文化交流しましょうということで進んでいます。いずれ小中学生の交流をやりたいと考えています。来年の1月に向こうから4人程来ます。こちらからは3月に行くことにしています。来年は町が合併して10周年ですし、サンドクラフトが20周年になりますので、南投県の知事さんや地位の高い方が来るということで内々に進んでいます。出来れば町の方としても人的交流まで持っていきたいと考えています。

それから、通学路の安全についてはどうでしょうか。

鎌田教育長 警察との連携もやっておりますが、それで通学路に監視カメラを設置してもらえないかと警察の方から要望されまして、各学校の方に話をしました。通学路といっても広いので学校の入口付近に各校1基ずつ設置してもらえないかということで、警察の方ではぜひやって下さいとのことでした。来年度の予算に盛り込んで行きたいと思っています。何が起きるか分からない時代ですので。

三浦町長 県と市町村との協働政策会議というのがありまして、その中でも県警本部長から監視カメラの設置要請がありました。高いものでなくても良いということでした。三種川の監視カメラは高いもので1台数百万もしました。6基設置して常時監視体制で4千万から5千万程度ですが、そういうものではなくてもいいという話でした。

嶋田次長 高くても5, 6万程度のもので今検討しています。最初は通学路に設置してもらえないかということだったのですが、議会

でも質問があつて、あまりにも範囲が広いし、プライバシーの問題があるということで答弁した経緯がありますと。そうであれば学校の玄関の辺りでも良いのでということでした。

三浦町長 遠隔操作とかではなくて、ただ記録媒体とカメラが付いていれば良いということだと思います。

嶋田次長 今はコードで繋がなくても無線で記録出来るようになってるようです、安くても。そういうのを使った方が良いのかなと思っています。そうすれば壁に穴を開けなくても済みますし。

鎌田教育長 先日、町の就学指導委員会が開かれまして、特別支援教育の支援員を相当増やさなければならない状況になっていると。対象児童生徒が増えてきています。

三浦町長 確か現在は2千万程度だったと思います。県の方で以前、支援員のお金を付けていたんですが、打ち切りになったんですね。町の方ではそれをやめる訳にはいけないので、全額町の方で出して継続している訳ですが、その増額ということですね。

鎌田教育長 大幅増額です。

小林課長 現在18名ですが、25名配置になりますと3千万位の金額になります。

三浦町長 LD学習障害、ADHDなどでしょうか。

水野委員 発達障害をベースに持ちながら、家庭もなかなか育成環境がないと、かなりの問題が低学年のうちから出てきますので、集団で補正するにはかなり難しいことが出てきているのだと思います。そこをサポートすることが必要です。

堀田委員長 増えてきていますからね。

鎌田教育長 低学年のほうに手厚くやりたいなと思います。昨年までは対象児童が3、4人いても支援員一人で見えていたんですが、学校の方ではもう少しいた方が助かるということでした。この間就学指導委員会でも話がありました。増えていますので。

水野委員 今の子どもたちは極端な形で出てきます。やはり文化的にも、育つ環境も違うので。揉まれていないし、過保護だしということもあって、子どもたちのコントロール能力が育つ場が無いので、極端な事例が沢山出てきています。授業中うろうろするというのは序の口です。指導して直るようでしたら話は早いですが、なかなか難しいです。マンパワーは必要なのかなと思います。

嶋田次長 今、水野委員がお話されたように、最近情緒障害的な子どもが多くなってきているようです。

鎌田教育長 先日も、かなり危険な事例があったようで、休み時間、先生

方が職員室に帰っても、支援員は残って付いているようです。

水野委員

もう1つは、経済的な意味でなく、子どもの資質的なところでも格差が出てきている時代だというふうに感じています。

今、教育委員として何が出来るか分からないんですけども、子どもたちをどういうふうに伸ばすかということと同時に、問題を抱えた子どもたちにどう対応するかというのが先生方の喫緊の課題だと思うのですが、先生方は忙しすぎるのと、これが良いと言われれば「全部やれ」と来るから、全部やらなければいけない余裕の無さで、子どもたちの良く分からない行動とかに対応することが出来ない。シャットダウンというか、ある意味思考停止になってしまう。昔のように余裕があれば、ああでもない、こうでもない子どもと格闘しながら考えていくことが出来るのでしょうかけれども、今そういうことは学校教育では無くなってきているのではないかと思います。

三浦町長

書類作成が非常に多いと聞きましたが。

水野委員

そういう子どもたちにもすごく可能性があって、この子たちを拾っていく教育を考えたときに、今何をしたら家庭教育が上向くかということでは非常に難しい時代なんだと思うのですが、少なくとも先生方が対応出来ることを支援する仕組みとか、支援員さんもそうですが、ただ増やせば良いかといったら、もしかしたら、うまく機能させる仕組みが出来ていないということもあるかもしれない。仕組みたいなところにも少し力を入れて考えてみたときに、何か出来ることがあるんじゃないかと考えたりします。

堀田教育長

そういう意味では、情報支援の方を入れて下さってすごく現場では助かっていますよね。

三浦町長

学校によっては、図書室をすごく見やすくレイアウトしていて感心しますよね。

堀田教育長

情報支援員さんがやって下さっているところもありましたね。得意な方がいて。

三浦町長

情報支援員さんは何人位いますか。

小林課長

たった1人です。昨年度までは図書支援員が1名、情報支援員が2人、この3名で各校を回っていたんですが、今は情報支援員1名だけで図書館の方も行き、先生方の調査物のパソコンでの調査表作成も行い、教科書のデータ入力も行い、非常にフルで活動している状況です。出来れば増やしていただければ、先生方の多忙化もかなり防げる、生徒と向き合う時間も作れると思います。卒業式、入学式のパンフレット等も学校自前で素

晴らしいものが出来ております。

三浦町長

時間も押してきましたが、生涯学習や芸術文化の部分についてはいかがでしょう。生涯スポーツでも結構ですけども。

国文祭が契機になって歌舞伎だとかキルトとか、色々な方が活躍されて、改めて層の厚さというのが良く分かりました。歌舞伎の方は教育委員会で予算取りしていただいて、第2回の地歌舞伎の祭典を行いました。来年、第3回もぜひやった方がよいと思います。よその地区との交流ということも素晴らしいと思います。

それから、社会教育で公民館講座の方はどうですか。体を動かすのが人気あるみたいですね。3 B、ヨーガとか。

生涯スポーツの分野では、この間、畠山篤美さんが30年表彰を受けまして、昨日ご報告いただきましたけども、これを機会に更に頑張っていたきたいと思います。後進の育成の方はどうですか。

後藤課長

最近、中間層がいなくて新しい方が増えています。来年また30年の方が1人いますけども、その後しばらくなくて、7、8年程間があきます。新しい方を入れながら進めています。

あと、スポーツ関係では、総合体育館が10年ということで老朽化、施設の損傷も出てきています。雨漏りも出ていて少しずつ直していますし、塗装の腐食などもあります。

大規模改修の関係では、球場のSBOが変わりましたが、そのままになっています。それを直すだけで数百万円も掛かりますので、この後の大規模改修の設計でどういうふうに出てくるか。掛かり増しするようであれば電光掲示については名前の入る部分を削除するとか、そういうことも必要になってくると思います。電光掲示だけで1億3千万とかします。その他に内外野の芝とか付帯設備の改修などで、もしかすると3億とか3億5千万ほど掛かる可能性もあります。

三浦町長

補助金とかは。

後藤課長

一応t o t oがあります。助成対象経費限度額1億5千万円の3分の2の補助にはなっているのですが、東京オリンピックの関係で早めにやらないと無くなるというようなことも言われています。やるとすれば今だと思うのですが、これがずれると東京オリンピックの方に持って行かれる可能性があります。

三浦町長

スカルパは、出来て20年位になるんですか。

後藤課長

はい。t o t oの大規模改修は20年過ぎてやっと申請が出来ることになっています。

三浦町長 今日新聞で見ましたけども、琴丘の旧公民館のアスベストですが、かなりあるのですか。

後藤課長 かなりあります。レベル 1, 2 の数値の部分は、解体前に除去しなければいけないそうです。レベル 3 とかその他の状況のところは解体をしながら除去してもいいと。ただ、レベル 1, 2 の部分が全体の半分 500 m²位だそうです。レベル 1, 2 を除去するとなると平米当たり 3 万円位ですので、除去するのに 1,500 万円位掛かるということです。除去設計、解体設計が必要になりますので、検討を進めていきたいと思います。

三浦町長 それから、基本目標 7 の国際理解の促進と国際交流の推進ですが、町内の案内板なども中国語やハングル文字など統一したものに変わっていかねばいけないなと思っています。これは商工観光の分野ですが。

嶋田委員 今の案内板とは関係ないかもしれませんが、森岳に入ってくるのが難しいんですね。迷って結局どこにいるのか分からないという人がいるようです。なんとかならないものでしょうか。

三浦町長 県道が並行して走っているというのもあって、標識がちょっと分かりづらいというのはあるかもしれません。商工観光の方に話をしておきます。

嶋田委員 それから、まち・ひと・しごと創生会議に絡んでのことですが、新聞によると今現在 1 万 8 千幾らの人口が 2040 年には 1 万人ちょうど位になるんですね。それを 12,300 人位に維持するということですが、ぜひそうしていただかないと殆どの地域が消滅してしまう。この問題に教育の面でも対応していく方法がないものかと。まち・ひと・しごと創生会議では定住人口を確保していくというのが主眼でありましたけども、教育の面でも、秋田県は学力が全国トップクラス。三種町は秋田県の中でもだいぶ良い位置にいます。そういうところを売り出して、この地域は学力が高い、なおかつ子育て支援も充実していて、ここに来ると健全に育っていきますよ、という仕組、実績を作っていくって、それを売り出すことによって出来るだけ人に集まってくてもらいたい。そうすると、将来もこの地域は少ないながらもなんとかやっていける。教育面でも対応出来るんじゃないかと思っています。

三浦町長 子育て支援ということでは、教育委員会関係では給食費を半額にしたり、医療費の無料化を中 3 から高校まで広げようかと考えています。

それから保育料について、県では第 3 子が生まれた場合には、

第2子以降を無料にするというのは出しているんですが、町の方では、第2子以降は全て無料に出来ないかということで、福祉課に検討させています。本当は全て無料に出来れば良いと思うのですが、かなりの金額が掛かりますので。

それから、問題は学校だと思いませんか。学校が無い所に人は来るのかという問題があります。どうやってその地域に学校を残すかということも大事ですし、もちろん必要であれば、統合しなければならないでしょうし。

昨日さきがけの編集局長さん等と懇談する場があって、美郷町さんが3つの中学校を統合して美郷中学校を作った。そうしたら中学校の入口にスクールバスが10何台並ぶという話がありました。美郷の場合は、平場で割と近いんですね。本町で3中学校を統合した場合、町の真ん中に設置すれば、おそらく端の子どもさん方は自転車で通えない。スクールバスを出せば良いんじゃないかということになれば、果たしてそれで良いのか、という問題があります。

父兄の方からの町長への提言の中で、早く中学校を統合して下さいというのがありましたが、逆に地域に1つずつ中学校を残しておいて、小中一貫校にするという手もある。定住と学校の有り無しというのは密接な関係があって、おそらく学校が無い所には来ないと思います。

鎌田教育長

学校の統合ということではなくて、学校の在り方ということで、去年から各団体を回って、現状で何人の生徒がいて、何年後に何人になるといった資料を持って説明に歩きました。小規模校のメリット・デメリット、それから複式学級が下岩川にありますので、複式の良い所、悪い所。それから学校の耐震問題についても話をして、40団体程を回りました。

まず、この後アンケートを年内12月に取りたい。内容と対象者をどうするかは、次の教育委員会に掛けますのでお願いします。アンケートは1月に回収して、2月中に内容をまとめた。そして3月議会である程度アンケートの結果を説明すると。それから、来年度になりますが、自治会長会議の時に9地区で話題にしてもらって、その後また次を考えていきたいと思っています。

その都度、教育委員会の会議で協議していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

鎌田教育長

能代市で、複式学級が発生している5つの小学校についてアンケートを実施して、早く統合して欲しいという意見が大体半

分位だというふうに新聞にも出ていました。それからパブリックコメントを行って、その後在り方検討会を立ち上げていくということでしたけども、うちの町も出来るだけ地域のあるいは保護者の意見を取り入れながら時間をかけて、出来れば平成32年頃どうかと思っていますが、そこを目途にして進めていければと考えています。

三浦町長 32年というと、合併特例債が使える最後の年ですね。それを考えると、32年だと少し遅くて、もし建設するとかお金を使うとすれば1年位前がタイムリミットだと思います。

鎌田教育長 建設するとすれば32年がタイムリミット。それまで何年かあるので時間をかけて。それから、今町長からお話あった地域に学校を残すということで、小中一貫校もあるだろうし、小中併設校、義務教育学校というのものもあるんですが、それも住民の方々に示していった内容をよく分かってもらってから。八郎潟でも小中一貫校ということで新聞に何回も出ていたんですが、一貫校になると難しいことが一杯出てくるということで、小中併設校にするということです、常盤みたいに。

三浦町長 併設と一貫校では違うんですか。

鎌田教育長 違うんです。内容が違うので、その辺りも住民に分かってもらってから進めていかなければ。国の方では小中一貫校を進めているような話がありますが、琴丘地区に「琴丘小中一貫校」、山本地区に「山本小中一貫校」というふうにするということになれば、山本地区はやはり小学校1つになるんですね。下岩川の小学校が今34名。もう5年後は26名。5年で8人減ります。

この間、さきがけ新聞に大葛小学校の記事が出ていましたけども、市民の方が「学校をもう一度戻してくれ」と言ったのが載っていました。大葛も学校が無くなったら、ここ何年間かで大変な状況になってきた。新しい市長と語る会でそういう話が出たようです。いずれ簡単にはやらないで時間を掛けていこうということです。

三浦町長 あの新聞には「旧大葛小学校」の「旧」を取ったらどうかというふうに載っていましたが。

鎌田教育長 1人でも子どもがいれば学校は無くさないという首長もいるみたいです。

嶋田委員 学校を無くすということは、その地域の人がいなくなるということですので、慎重にやっていかなければいけません。

佐々木委員 やはり結果だと思いますよ。統合が多かったらそれはそれで

堀田委員長 考えていかなければなりませんし、どういう値が出てくるのか。

鎌田教育長 そうですね。今子どもさんを持っている親、これからの人も。

先程も言いましたが、12月にアンケートの内容と対象者を委員会の方に掛けて、それに基づいてやるということをお願いします。

佐々木委員 先程、統合を早く進めてもらいたいという意見があったということですが、どういう人ですか。

三浦町長 「町長への提言」ですが、匿名でした。

佐々木委員 理由は書いていましたか。

三浦町長 確か部活動だったかと思います。

堀田委員長 部活動絡みじゃないかなと思います。

三浦町長 高校でもクラブ活動で合同チームがあります。下岩川小学校と金岡小学校の下岩川ゴールデンヒルズなんかもそうですし。

佐々木委員 逆にそれも面白いかもしれませんね。

堀田委員長 ただ、親の送迎の負担はあるかもしれません。

佐々木委員 アンケートの範囲が問題になると思うんです。父兄の人は反対の人も賛成の人もいると思いますが、OBとか年配の人は反対する人が多くなると思います。非常に難しいと思います。

三浦町長 山本地区の小学校は、修学旅行は3校一緒に行くんですよ。そういうところで交流も図っているんですね。

堀田委員長 交流しないといけないんです。団体扱いにならない関係で。

小林課長 3校合わせても32、3人です。

鎌田教育長 3小学校合わせても1クラスです。

今は3校ですから6年生に3学級で、先生が3人いるんですね。統合すれば1学級になるんです。先生は1人しかいなくなります。統合してもクラスは増えないので先生は増えない。だから山本地区のことだけ言えば、先生は1/3になる。考え方として、国語、社会とかを勉強するときはそれぞれ分かれてやって、大勢でなければ出来ない例えば体育とか音楽とか、そういうときは町のバスを使って一緒にやる。そういう考え方で進める方法もあるんです。先生は多くいた方が良いでしょう。

堀田委員長 ただ移動の時間がもったいない。

鎌田教育長 例えば、1週間に体育が3時間あるとすれば、1日に3時間やってしまう。もう2時間は美術とか技能教科をやってしまうという方法もある。数学、国語のときは分かれてやる。

堀田委員長 色々柔軟に考えていかないといけません。

三浦町長 考えますと、技術とか音楽の先生については、中学校はいたりいなかったり、専門であったり専門でなかったりしますよね。

鎌田教育長 先程町長がお話した定数の問題ですが、定数は学級で決まるんです。3学級あれば先生は3人になる。それに加配がありますので、生徒指導とか貧困とか、それから少人数で授業やるためとか。それに財務省が今反対してやめると。それが無ければ、先生は学級に1人ずつしかいなくなるんです。そうすると、その先生が休めばその学級は自習になってしまう。だから、出来るだけ加配をお願いしたいということです。定数加配、つまり定まった加配と生徒指導とか貧困や生徒指導の問題があるから加配するとか。三種町にもその加配があって8人あります。それを各校に割り振ってやっている訳です。水野委員がお話されたように支援員も必要なんです。都会の方では「チーム学校」といって、部活動も先生方はやらないんです。他の人が来てやる。

水野委員 私が子どもを育てていた時は、選択肢の無さというのが田舎のデメリットだなと、とても感じました。どうしてもスポーツ偏重というのがあって、芸術活動とかが学校では殆どありません。小学校でも運動が苦手な子はスポ少にも入れない。入らないという選択肢もなくて、嫌でも入っているという子どもも沢山見ているし、合唱部も無い訳ですから。あればもしかしたら伸びていたかもしれない子がいる。生涯学習の中でそういった子を取り込んで、町ぐるみで工夫していくことで、やっていくのかなとも思います。

先生が少なくなっていくという危機感というのが非常に大きいと思います。今の手厚さでも大変なのに、これがもっと負担が大きくなったら、ちょっと危機的だと思います。

鎌田教育長 金岡小学校の地域支援本部というのが文科省の方から12月2日に表彰されるんですね。地域の方々が学校に入ってくれるんです。これからも、もっともっと入ってもらって支援していただけたるような体制を更に作っていかなければならないと思っています。そのために少しお金も必要ですね。

水野委員 その点、今回学校を回った時に、校長先生が主体的に学校を変えようと頑張っているところが沢山あって、創意工夫で学校を変えようというときにお金が無いというのがもったいないと思います。独自性で本当に変わっていくんですよね。

三浦町長 夏休みに子どもさん方が先生に暑中見舞いを出すというのがあったと思うのですが、今もやっているんですか。

堀田委員長 やっています。それは学級の担任の裁量です。集金の中からハガキ代を出したり様々だと思いましたし、郵便局の方でも援

助していただいているということを聞いていました。

三浦町長 協議事項に（２）その他とございますが、何かその他ございませんか。

鎌田教育長 今、町で力を入れているクアオルト、それから日体大との協定もありました。それで「スポーツ健康都市宣言」を出来ないものかなと。健康都市だけでなく、スポーツ健康都市ということで、日体大も体育だけでなく健康の方も一番進んでいる学校です。

三浦町長 そうですね。健康寿命の延伸ということで、３地区にコースが出来て動き始めています。今年はまだ初年度ですのでまだ大きくはありませんけども、どんどん広げていって沢山の皆さんが参加出来るようにしていきたい。そしてまた、町外からも来ていただけるように持っていききたいなと思っています。せっかく秋田県で唯一日体大と連携協定を結びましたので、健康とスポーツを合わせて都市宣言を出来るように持っていききたいなと思います。いずれ、知事もよく「健康産業」と言いますし、雇用の場にもなって大きな産業になる可能性もあります。長信田さんもありますし、良い環境にありますので、検討していきたいと思います。

今日はいろんな良いお話がありました。普段聞けないようなお話も聞かせていただきました。大綱につきまして皆さんからお持ち帰りいただきまして、後で私宛でも教育委員会宛でも結構ですので、メール等でいただければ対応致します。年内にでももう一度皆さんにお渡しして目を通していただいて、その後最終稿を決定したいと思います。あと、これを付け加えたらどうかというようなものがございましたらお知らせ願います。

木村課長 皆さんに報告したいことがございます。

三浦町長 はい。

木村課長 町の行財政改革大綱の中に山本地域の保育園の再編という項目がありまして、１１月５日に下岩川保育園の保護者の皆さんの意見を伺うということで説明会を開催させていただきました。色々意見がありましたが、最後に出てくるのが、小学校と一緒になければ不都合だ、といったような状況でございます。この後、説明会等を開催しながら、今度は保護者だけでなく地域の意見も聞きながら進めていければと思っていますところです。

三浦町長 その時、厳しい意見もあったようですが。

木村課長 今の保育士が足りない状況、その充実を図ったらどうかという意見がありました。

嶋田委員 上岩川に保育所はあるんでしょうか。
木村課長 琴丘地域は一本化されています。小学校も一本化されていますので。
嶋田委員 では、上岩川の皆さんは、鹿渡まで連れてくるのですか。
木村課長 スクールバスがありますが、ただバスは３歳以上でないと乗れませんので、未満児は自分で送り迎えすることになります。
堀田委員長 合併した時点からで、保育園は小学校より早かったんです。
三浦町長 そうすれば、以上で本日の会議を終了させていただきます。
どうもありがとうございました。

午後４時閉会

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。

三種町長 _____

署名委員 _____